

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成27(2015)年  
**4月号**  
通巻536号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成27年4月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷製  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



平成27年3月31日 大倭「須賀の道」の柳と、満開の桜 奈良市 井手 泉さん撮影

平成4(1992)年8月2日

## 大倭を語る ― 野草塾での講演より〔3〕

法主 矢追日聖 (満80歳)

### 宗教活動の拠点

さつきもゲン(青山日元さん)が話し  
とったけれども、昭和二十一年、私はま  
だ実家におって、ゲンを一足先にこっち  
に来させてあったんです。その年の八月  
十三日、旧七月十五日の夕方のことでした。

ここで私が牛の餌にする草を刈ってい  
たら、上からこう引つ張り上げられるん  
やな。「なにくそー」と思ってたつむく。  
また引つ張り上げられる。「おかしい」  
と思つてふと顔上げたらね、東の空から  
虹のような七色の光がサーチライトみた  
いに四本出てんねん。そしてそのまた間  
にもあるから、全部で八本の光が出て  
わけや。

これ理屈で考えたら、夕日が沈む西の  
生駒山の方から光が出てくるのやったら  
まだわかるけどね。「おかしいわ、一体  
どういふことかな?」とか、「こんな  
絵描きやつたらきれいに描きよるやろな  
あ」と思つて見とつてん。まあ自然現象  
なので、誰でも見られたはずなんです  
どね。

そうした時に、ちやうど上から声が聞  
こえてくるの。「黎明は訪れたり、東方  
の光。大法は立てり、大倭太加天腹」と、  
うつろの中に入っているみたいいな「ワ  
ン、ワーン」という感じで。

そうすると、「結局やっぱりこの場所  
で宗教活動するんやな」と思つて拠点を  
ここに決め、昭和二十二年に移つて来た

わけです。それがたまたま、光明皇后の縁故のある場所やったんです。

## 光明皇后の理想

その光明皇后さんは花を持って出て来てね、仏教やから蓮の花やったらまあ話わかるんやけれど、紫陽花やねん。そしてね、「地下水の如く清く流れ、紫陽花の如く美しく咲け」と言われた。「こういう意味かな？」と思うておってんけどね。その時から光明皇后さんと仲良しになってん。嫁さんみたいで、いろいろ細かいことゴチャゴチャ言うてくんねんけどね(笑)。向こうは実体がないから別に色事ないわけや(笑)。けどまあ感じ悪くないわ(笑)。光明皇后さんはなんぼで逝きはったか知らんけど、産まれてから死ぬまでの人間の相というものがあんねんな。その中で一番いい年頃の姿で出て来るわ。やっぱり考えて出て来んのやな(笑)。四十一、二歳かな、ちよつと歳の勘定は鈍いんやけどね。

それからまた、「来る者をして拒まず、去る者をして追わず」とも言われるけど、何したらいいか全然わからん。そしたら、「今は日本人みんなの心が迷っている。だから大阪の焼野原に立って、人の幸せになる道、いわゆる社会福祉とかを話しに行け」と言うわけやな。

私は街頭の人前で喋った経験あれへんがな。それでもアホやから素直に出て行った。昭和二十二年ぐらいいやったかな。

(石垣雅設・昭和二十二年一月十九日です。)

あんたよう覚えとるな(笑)。

その一番最初に立ったのが、大阪の梅田の駅頭でした。そしたら、引き上げ者が外地から帰って来てる頃やもの、気の毒にみんな痩せてけててね。

私も偉そうに「神さん」口に出すし、そりやもう「戦争に負けて神さんなんてあるかい！」て言う人おったわ。それから心斎橋通りあたりでまた喋ったりした。

一番長らく喋ったんは阿倍野橋の陸橋の上でしたわ。そこは天王寺公園の近くやから、浮浪児・浮浪者がようけおるわいな。そこから一人連れて帰り、二人連れて帰りしてん。

そうしたら今度は、飯食わさんならんに食うもんあれへんがな。百姓しとったけれども米かて僅かにしか取れへんのやから。

それで、「これまた一人増えたら喉絞めやな。皆が食うもん困るやろ。かなわん」と、人間根性でポツと心に浮かぶんや。そしたらな、光明皇后さんの声が聞こえてくるの。「連れて帰れー！」って(笑)。「ああ、しゃあないな」と連れて帰ったら、何とか分け合せて食わにやいかんがな。そんなことで困って、初めて人情というもの、人の心というものを経験させられたわ。

そして光明皇后さんは、「ゆりかごから墓場までのあいだ、人間同士お互い幸せに暮らしていけるような一つの地域社会の雛形を、小さくてもいいからこの場所で作ってくれ」と言われるんやな。「紫陽花の如く美しく咲け」というのがそれやねん。ほんで一人増え二人増え三人増えてきて、財布一つに釜一つという生活共同体のようなものが知らんまに出来てしもうてん。何にも考えていないのに自然発生や。

それから十年たって、初めて行政の救護施設が出来てん。今では百人余り入ってるとし、特別養護老人ホームには五十人ほど入ってます。これは痴呆症の老人もおりますけれど、それから身体障害者の療養施設というには八十人入ってます。

結局、「地下水のようなきれいな心で、紫陽花

の花の如くに人間みんな心をつつにして、肩を寄せ合せて丸っこく仲良く暮らしていく社会を作れ」ということやってんな。それが光明皇后の理想なんです。

## 求めずとも与えられる

人間幸せにしようとしたら修養も教育も大事やけれども、医療というのが大事やわね。やっぱり不養生とか何かして病気になる場合があるがな。それを医者によって治してもらうたら、それだけ人生が長くなるし。誰かて自分から死にたいと思う人おらんし、この世に生まれた以上は一日でも長生きしたいしね。

けれども、私は医者でも何でもないわな。その時、光明皇后は「お前に必要とするものは、必要とする時が来れば、求めずとも与えられる」と腹の立つこと言うんやで(笑)。「人間なんて皆、勝手なこと思うとるのに、それが全部思うようになったら世の中どうなんのや？」と思うがな。

それでもその論法で四十年辛抱して、昭和六十二年に、大倭病院というのが出来ました。まあその間にいろんなことがあったけれども、協力してくれる医者も出てきましたし。

また何や知らんけど、私のこの気遣いを崇敬してくれる人がおるのよ。何の利益にもならへんねんから、その人かて言うたらアホやけどね(笑)。そういうように私を心の寄りどころにしてる人がおたらね、「不養生したりして死んだら具合悪いな」と思うてますねん。みんなも「長生きしてや」と言うてくれるけれども、私の場合は棺桶が目の前にぶら下がってんねんからね。私の肉体には先に言うたような条件の焼き判(≡先月号では「印」)が押されてるからね、いつあっち行くか

わからへん。レントゲンで見たって、心臓は肥大しとるし、世間の人みたいな健康体と違うんやで。これは障害で、私も一人の身体障害者や。それでもまだ生きとんねん。あんなたちの中でも、そんな人ようけおると思うんやけどね。

だからうちの救護施設なんかには、どんな身体障害者でも入って来るけど、そんな人ら見た時、気がわかりますよ。私も子供の時、恥ずかしかったりかっこ悪い思いしてるしね。でもその時は悲観したけれども、成人になった時、さつきも言うたように兵役免除になって、「これのお陰で命が助かったなあ」ということになってくるしねえ。

## 霊の世界との交流

私の言う「カミさん」とはね、大きく分けて二種類あんねん。まず自然神。これは我々の宇宙の生命体である本当の大神さんで、絶対帰依しなけばいけない宗教の対象、信仰する対象なんです。

(※法主さんはよく「加美」と書かれてる)

ところがもう一つ、上という意味の神さんがおるんや。今は示す偏の字を使うけどね。これが人格神(人格霊、固有霊)。だから例えば須佐之緒命でも、日本武尊でも、あるいは稲田日女命でも、みな我々人間と一緒になんです。肉体を持ってこの世に生まれて来て、肉体が無くなって心魂だけが残っておる、いわゆる靈魂やね。昔に死んだ人やからかみさんであって、偉いから神さんではないねん。それには一つ一つ特徴とか個性があるわけで、ええ人も悪い人もきつとおると思うんや。

だからそれを御本尊にして信仰したら、とんでもないことになってくるんです。例えば近くでは神戸に湊川というお宮さんがありますわね。そこ

では楠正成さんを御本尊にして祀ってるわな。喧嘩の好きな人はね、ここ信仰したらええ。そしてたら喧嘩教えてくれる、上手にね(笑)。だからそういう人格神を宗教の対象としたらややこしい人間ばかり作って、えらいことになってくる。

ところが日本では、本当の加美さんも人格神も区別なしに、何でもかんでもみんな神さんにしてしまう。だから霊的にちよつと感応する人であつたらね、狐とか狸の霊でも出て来て何か物を教えてくれるけれども、その相手が神さんと思うたら大間違い。今拝み屋やつてるの、ほとんどそんな種類やもの。また、そんなもんを御本尊らしくして、一つの宗教団体を作っている人が多いんですよ。そんなこと言うたら悪いけどね。

霊的に感応して来るのは、人格霊・固有霊または畜生霊のどつちかです。それを、「この神さんを信仰したら御利益ある」と言うのは、ほとんど偽もん。ところが、そういう嘘言うたら流行んねんな。それは宗教じゃなくて企業なんですよ。

ここでは、「うちの神さん、なんぼ拜んでも御利益ないで」とほんまのこと言うてる(笑)。私はいつも霊界の人の気持と交流してんねんけど、その点においては非常に正直なんです。

一方、宇宙の生命体の加美さんの方は、自分の心臓を動かしてるのやから、遠いとこやなしに自分で持つて歩いてるんです。ここではそれを、加天腹大神という名前にしてあるだけなんです。それはあんなたちの腹の中に入つとんねんから、自分の体を大事にさえてくれたら、信仰してることになるんやな。だから、こんなもん本当は拜んだり祀つたりする必要ないんですよ。

けれども、我々形のある人間はね、宇宙の生命体であっても、それに対して信仰するのに何か形がなかったら気持として寂しくて格好つかへんね

ん。それでうちの御本尊、何か形にせないかんと思つて、この拝殿にも磐座一つ置いてます。これ木津川で拾うて来た石やねん(笑)。そないしたかて加美さん喜ぶわけやないけどな(笑)。

今日でも後でまたお祭りすると言うてるけど、そこにお供え物が無ければ、みんなは「この加美さん、お祭りするのに何もお供えしないんやな」と思うわな。そんな供えたかて供えんかったかて、宇宙の生命体の加美さんは文句言わはらへんねん。

けれども、人格神は言うねんで(笑)。生きてた時は飯食うとつてんから、そのような形のものを供えてあげて、いろいろと交流しないといけないんです。

私が見とつたらね、ここの大祭の時とか祭典の時には大抵山陰の出雲からもすごい大きな鯛来ますよ。三輪山は足四つ括つた猪バインと出して来んねん(笑)。大倭から持つて行くのは、ほとんどがお米さんですわ。そんなふうな霊界でも地区区のお付き合ひがある(笑)。

だから、御利益求めるとか願ひ事して拜むとかそんな対象やなしに、肉体の持つてる人間と肉体の持たない人間が、両方で交流しなければ、我々の側もまた向こうの側の人も幸せに行かない。さつきの「太」と「加」の、陽と陰の原理と一緒になんですよ。

今日もいろんな因縁があつてみんな寄つてると思うから、私は何でも喋りたい気持なんやけれどもね、最初の自己紹介の時にも言うたように、ものすごう声が出にくい。これはもう拡声器も何もない街頭でガーガーと喋ってきた後遺症で、喉を傷めたんだと思うんです。

個人的に相談をする人もありましたけれども、私のわかる範囲ではお答え出来ると思います。今

朝かて、ここで須藤稔先生(※青森県のりんご農家)のお話を聞きたかったんやけれども、私の知ってる人が「弟の嫁さんが、にわかになんか狂いみたいになった。何かの霊障害か?」と相談にみえたので来られなかつたんです。

その時、私は雪隠(＝便所)の中に入ってたんだけど、茶の間でうちの案内とその人が話してる声は聞こえてんねん。耳遠いから何喋っとんのやわからへんけど、「ああ、これの霊障害やな」と、雪隠の中でそれが出て来るのや。外へ出て茶の間に座って話聞いてみたら、まあその通りやっつてん。ちよつとややこしい霊でね、それを外しといたから、じきに直ると思うけれども。

普通、神さん(お宮さん)を拝みに行く時、精進潔斎して手でもきつちり洗(あらい)おて行くわな。お宮さんには御手洗(みで)ってあるし。私の場合はちよつと例外になつてるのか知らんけど、ケツまくつて糞(うんち)しとる時でもわかる(笑)。

私は拝むというようになこと、ほんましたことあらへんねん(笑)。

教服や儀式は、生きた人間に見せるためにあるんやで。だから、ゲンにでも私は「猿回しせえ」とか言うねん(笑)。人間には一つの形がなけりゃいかんねん。スッポンポンでは可笑しいからね(笑)。女の人でもみなきれいにしてはるわ

な。やつぱり世の中、美観(みくわん)というもの、美しいものは結構(けいこう)やからね。  
私には戒律(かいりつ)があらへんし、ここは怖い所(ところ)だといふような家(うち)に入(い)っても、罰(ばつ)当た(あた)つたことない。それは、「虎(こ)の威(い)を借(か)る狐(こ)」という諺(ことわざ)のように、私には大倭(おほやまと)の、親元(おやもと)の神(かみ)さんが背(せ)中に付(つ)いておるからやねん。だから全国(ぜんこく)のどこのお宮(みや)さん行(い)つたかて、そこにもし人格(じんかく)霊(れい)がおつたら、大抵(たいてい)礼(れい)を尽(つ)くしてお迎(むか)えしてくれます。

### 古木に住む靈魂と木の靈魂

お宮(みや)さんのお社(やしろ)の中(うち)は空(そら)つぽで、固有(こゆう)霊(れい)・人格(じんかく)霊(れい)は、大抵(たいてい)お宮(みや)さん(お宮(みや)さん)の古木(ふるき)に乗(の)つてたり、その中(うち)に住(す)まいしてることが多い(おおい)です。

この間の諷訪(ふうぼう)の明神(めいじん)さん(お宮(みや)さん)の時(とき)でも、神主(かみ)さん(お宮(みや)さん)お祓(はら)いしてくれて、私が代表(だいひょう)で玉串(たまぐし)持(も)つて形(かたち)だけはお参(まゐ)りしてんけど、お社(やしろ)の中(うち)見(み)たら何もあらへんねん(笑)。

ところが、それが済(す)んだら、引(ひ)力(りき)に引(ひ)つ掛(か)つたみたい(みたい)に「ツウツウツウ」と引(ひ)つ張(は)られた。そして、テレビ(テレビ)によ(よ)う出(で)ると、あの心柱(こころばしら)の所(ところ)に連(つ)れて行(い)かれてん。そこ(そこ)にまたでっかい古木(ふるき)があつてね、その上(うへ)から「ワツ」と声(こゑ)掛(か)けられてん。

「親元(おやもと)から(よ)苦勞(くろう)さん」といふ歓迎(かんげい)の意味(いみ)やわね。だからお社(やしろ)拜(まゐ)んでも神(かみ)さん(お宮(みや)さん)そこ(そこ)に居(い)てはらへんこと(こと)が多い(おおい)わけ(わけ)。(笑)。(笑)。こんなこと(こと)言(い)うたら叱(なぐ)られる(ら)けどね。

四国(しこく)の白峰(しろね)院(いん)が(か)あります(あ)るね、崇徳(すうとく)院(いん)やな、あれは。じき名前(な)忘れ(わす)れるんやけれども。私(わたし)がそこ(そこ)に行(い)つたらね、大きな木(き)の上(うへ)に止(と)まつてる天狗(てんこう)が、一斉(いつせい)に「ワー」と歓声(かんせい)上(あ)げよるねん。みんな崇徳(すうとく)院(いん)の家(うち)来(き)ばつかり。それは私(わたし)に向(む)けられてるのと違(ちが)うねん。親元(おやもと)から来(き)てる私(わたし)の背(せ)後(ご)に向(む)けられてんねん(笑)。

そんな因縁(いんえん)で私(わたし)は生(な)きさして(も)らつて(い)るん(は)です。そう(は)で(な)き(や)と(つ)く(の)昔(むかし)に死(し)んで(ん)ねん。そう(は)いう(よ)う(な)人間(にんげん)の靈(れい)魂(たま)だけ(は)やなしに、木(き)一本(いっぽん)にも(も)みんな靈(れい)魂(たま)あ(あ)ん(ね)ん(で)、生(な)きて(い)る(ん)や(も)の。だから大倭(おほやまと)の木(き)は(は)まだ(ま)だ(若(わか)い(けど)、私(わたし)は(い)つ(て)も「ああ(ああ)可(あ)く(哀(あ)い)想(しょう)や(な)、お前(おまえ)。根(ね)が(は)張(は)つ(て)る(から)歩(あ)かれ(へん)て(言(い)う(て)さ(す)つ(て)や(ん)ねん)。

屋久島(やくしま)の縄文(じようぶん)杉(すぎ)み(た)い(な)、千(ち)年(ねん)く(ら)い(の)古木(ふるき)や(つ)たら、人間(にんげん)の靈(れい)魂(たま)上(じやう)の働(はたら)き(し)ま(す)。だから自(みづか)分の心(こゝろ)を磨(と)いたり(す)る(の)に、あ(あ)んな(ふるき)の靈(れい)魂(たま)を(ち)よ(つ)と(お)借(か)り(し)た(方(かた)が(い)い(ん)です(よ)。

例(れい)え(ば)、お釈迦(しやくか)さん(お釈迦(しやくか)さん)が(は)悟(ご)つ(た)とい(う)普提樹(ふだいじゆ)を(か)いた(絵(え)で(は)、大抵(たいてい)お釈迦(しやくか)さん(お釈迦(しやくか)さん)が(は)木(き)を(は)背(せ)中(ちゆう)に(し)て(は)る(けど)、あれ(は)あ(あ)べ(こ)べ(や。私(わたし)が(は)靈(れい)界(かい)を(み)と(つ)たら(ね、お釈迦(しやくか)さん(お釈迦(しやくか)さん)が(は)木(き)の(は)方(かた)を(を)向(む)いて(は)一(いっ)生(せい)懸命(けんめい)拜(まゐ)ん(で(は)る(わ)。

中国(ちゆうごく)の氣功(きくう)でも(ね、やつぱり(は)古木(ふるき)の(は)所(ところ)で(坊(ぼう)さん(と(か(が(は)始(は)めた(ん)で(違(ちが)う(か(な(と(思(おも)う(ねん。そう(は)する(と(木(き)から(で)出(で)て(来(き)る(精(せい)が(は)乗(の)り(移(うつ)つ(て(来(き)て(ね、いろ(ろ)んな(現象(げんじやう)出(で)て(く(ん(ねん)。



## 遠い道 幻の町をたずねる

大阪府池田市 平谷照子

夢は、「竹内街道は長曽根に通う」と教える。

竹内街道といえ、大阪府堺市と奈良県橿原市を結ぶ八世紀以来の主要道。県境には海拔二八九メートルの竹内峠がある(『広辞苑』による)。

日聖法主は、富雄川の流域、「つまり鳥見一円から斑鳩にかけての地域を「長曽根」と称している(富雄川は近鉄富雄駅近くを流れる川・筆者注)。また何故、長曽根と称するかについては著書『ながそねの息吹』(野草社刊)の「日本民族太古のふるさと長曽根の国を偲ぶ」の中で詳しく説明されておられる。

〈※編集部注・石器や土器も使われていなかったような頃、生駒山系の山麓一帯をスソネ(裾根)と呼び、生駒山を神体山として「曽根の国」が誕生した。同時に、生駒山への登り口として「ヤマトの国」(山門、山戸)とも称せられる、と〉  
私は日聖法主がいわれる圏外に「長曽根」という地名があるとは考えもしなかった。……ところが、その後、エッ?という記事にであった。竹内峠を東に下りた麓に、竹ノ内という集落があり、長髓彦の墓があるというのである。

私の母は、この竹ノ内の近くの長尾の生れ育ちであった。知合いがいたのか、よく竹ノ内の名を口にした。おかげで子供心に竹ノ内ってどんなところだろうという思いを抱いていた。そこに長髓彦の墓があるという!

また長尾には式内社の長尾神社があり、神武天

皇が熊野から北上して大和の吉野に入った時にあらわれた井光の女、水光姫が祭神だという。近鉄南大阪線磐城駅に近いところだが、今はどうなっているのか。

——竹内街道に関して、長髓彦と神武天皇の影がちらつくのは興味深々というところである。この竹内街道上に、「長曽根」があるという……。

これが現実にあると知ったのは、一九九六年一月発行二十七版『京阪神詳細図』によってである。堺市金岡初芝地区の頁に、「長曽根町」があり、「長曽根神社」の所在まで記入されていた。開発が進んで、一体竹内街道が現在のどの道路にあたるかわからない。幸い、その後一九七四年版『京阪神及周辺詳密地図』というのが見つかり、竹内街道が長曽根町につながっていることが確認できた。

それでも、なおこの問題が嘘か真か、思い迷う内に大阪地下鉄の御堂筋線が、南は堺市中百舌鳥まで延長された。これに乗ればアツという間に「新金岡」まで運んでくれた。近接する堺市北区警察署で尋ねると、長曽根町自治会館を目標に行くとその近くにあるとのこと。道中の主だった目標になる建物を教えられたが、「少し距離が遠いから、警察の前の道路を渡り、そこでタクシーを拾われるとよろしいでしょう」と。

目的地に着いて車を降りると整備された広場があり、「長曽根神社」はすぐわかった。おどろいたことに、この神社は長曽根町自治会管理という標識が立っていた。

平成二十六年十一月二十四日のこと、夢の告示から四十年あまりの歳月が過ぎていた。

十二月四日、長曽根町自治会館を通じ、長曽根神社、長曽根町の由来を教えて頂きたいと申し込

む。十二月六日、長曽根町内会の役職の方から電話を頂く。会話の中でナガスネヒコの名がある。平成二十七年一月六日、長曽根町に関する資料が郵送されてきた。元は大阪府南河内郡金岡村大字長曽根であったのが、昭和十三年九月一日堺市と合併が決定、昭和十四年十二月に堺市金岡町と、堺市長曽根町になった。

郵送された資料を要約して書いてみた。

長曽根は約二千年前から、一辺が約四百メートルの方形の環濠集落を築いていた。周囲の壕は幅五・四メートルあったが、徳川家光の時代に幕府の命により幅一・八メートルに縮小する。昭和三十年代まで灌漑水路として半分以上が残っていた。現在は地下管化している。方形環濠集落の隅には竹藪もあったが、やはり昭和三十年代に伐採。壕に囲まれた方形集落で、隅に竹藪があるのは、弥生時代の典型的な環濠集落だという。

この長曽根地区は、耕作土層の直下が粘土層で水田の水持ちが良いという。自然の好条件と大陸から伝わった水稻技術の恩恵とで、生産力は高く農産物の蓄積は豊富となるが、集落内に貧富の差が生じる。稲作の発展は富と、反面様々な争いをもたらしたために、環濠を巡らすに至ったらしい。環濠を築くまでの長曽根は堅穴住居で、上町台地上にあり、水場や広場を囲んで円形または半円形に住居を配置し、集落が一定の規律のもとにくられ、人々が集団で労働していた様である。

〈編集部注・上町台地は大阪城辺りを北端として南北に長い。「ウイキペディア」より〉

自然条件に左右されることの多い狩猟採集の不安定な生活のもとで、人は自然を畏敬し祈った。長曽根神社の祭神は長髓彦だという口承伝説があるという。(H27・3・11記)

## 大倭千一夜

(其の十六)

昭和40(1965)年12月23日発行『大倭新聞』第16号より再録

## 死後の世界のはなし

——徒然なるままに心霊のくさぐさを喋る夜ばなし

法主 矢追 日聖 (満54歳)

## 序の口の話

年の瀬も近づいたね。昭和四十年もあと僅かを残すこととなった。人間であれば死期近づけりといったところだがね。そのかわり四十一年という新しい年を迎えることができるわけ。

……そんなこと、私に問う筋ではないよ。死後の世界があるか？ないか？なんてな。

私だったら信じもしないし、疑いもしないよ。実在しているものについて聞く方がおかしいもんだ。太陽が東から昇って西に沈むのを、信ずるか疑うかと質問しているのと同じことで愚問だよ。私に対しての場合に限るがね。

「死んだら死んだらべえ」と思っている人が世間には沢山いることだし、深いことを話したところで分からないのが落ちだから、浅く序の口の程度で話してやろう。

身近なところでだね。私達には物や金銭を中心とした生活面と、心を中心とした生活面がある。病気にしても、肉体からくる場合と、心からくる場合の二面がある。この二面が切離して存在していない。一体ではあるがどちらに傾いてもよくはない。アンバランスになると苦しみや迷いや悩みのようなものが湧いてくる。まあ、こんなことは職業化している宗教家に任せておいてだ……。

私が取上げる問題は、人間としての生活の中の物資と精神の二面、その二つの世界で人々は生き

ているのだが、霊界でもやはりこれに似た二つの世界をもって生活しているということなんだよ。

分かりますか？言え、人間界から霊界へ移る時にはね、この世でもっていた二面のうち、遺骸やそれに関係した物質的な物はこの世界、つまり地球に残しておいて、他の一面である心(精神、靈魂)の方の世界だけが霊界で生きることになっている。

つまりこの世でもっていた二面のうちの一面だけが霊界へ行くのであるが、霊界へ入れば、また細胞分裂の現象のように霊界で言う二面になる。この二面の世界は、この世においてその人の一生の歩み方によって生まれてくるのだよ。

……説明がまずいな、しかし、このへんで辛抱してもらおうや。つまらん事を聞くなよ。聞かれると弱いからな。

私だつてこの世に生まれてくる前は霊界で一夜をもって生活していたんだが、同じ仕事をまたこの世でも人間の立場で続けているだけなんだ。むしろん、この世のような家もあり衣類もつけ、食生活もしていたよ。側には男もあり女の姿の者(人格霊)もいて、それぞれの仕事をしている。私は幸せな人間なんだね。あの世で同居している者が生まれかわって、今私の近くにも居るかも知れないよ。男の形で、或いは女の形でね、数は多いよ。

そうだね、この瑞光院でさえ人々は立派な建物だと言うが、霊界の私の住居から見れば物置小屋よりまだ劣りだね、霊界での私はなァー、ハハハ。

ところが今はこのごままでなァー。喜んで、有難く現界のお役目を遂行しなければなァ……。この世の方が有難いよ。

こんな話は止そうや。あとは御想像にまかせることにしよう。

## 藤塚のおばあさん

母から頼まれてね、あの人が大倭の一門へ入ってきたのは、たしか昭和三十一年十二月、女達が正月用の餅米を洗っていた二十七日の午後だったね。その人は三十余年間、自分の一生を私の母に託して信仰を続けてきた真面目な人で、藤塚あきの(七十六歳)である。

主人のいた頃は大阪の高津で活版印刷を盛大にやっていた。印刷のことでは私もかなり世話になったこともある。藤塚夫妻には子がなかった。養子にしていた一人息子は戦死した。一人ぼっちになったあきのは布施市高井田のアパートに住んで、降っても照つても、夏でも冬でも市バスの切符を立売りしながら晩年の生活をささえていた。

肉体には限界がある、過労の疲れに老衰が加わりついに倒れた。その後、起きたり寝たりという程度だったが、年の瀬が近づくにつれ再起不能となりつつあるを知った母が、二十七日でなければ動かす日がないというので、万難を排して迎えにいった。ほんとによかったよ。この日は最良の日だったが、明るく日からはっきり病床の人となった。昭和三十二年の元旦を迎え喜んで餅を食べていたが、六日午後、見舞に来た知人達が枕辺で居ながら気のつかないような、静かにして美しく息を引きたっていったのだよ。うそのような話だがね。

これは前座だが、これからが大変なんだよ。愈々本番の話になる。

お葬式は世間並にね、寝棺に納め、生前は法華信仰をしていたので、大倭の神殿で仏式により、私も共に南無妙法蓮華經とお題目を唱えて土葬してやった。万教帰一、これが大倭教のゆき方だよ。分かるかね？

初七日の日であった。実家から母が廻向のため大倭へ来てくれた。法要のあと、笑いながら母は大倭の女達に、「藤塚さんに、誰が着物を着せたのかな。藤塚さんは、着物が長いので足にからみついて歩きにくいと言いながら、左手でツマをさげて出てきてな、御礼を言っていたよ」と言った。女達は開いた口がふさがらないといった顔付きで見合わせていた。誰からも声がない。納棺の時、見守っていた私はその時の事情をよく知っているが、母は知らない。私だけが思わず吹出して笑ったので緊張した空気がやわらいだのだがね。

## 霊界は知っている

六日の晩だった。鈴月と(沢口)志ながオンボロ役、遺体を清めてから嫁入りさせるような気持ちでばあさんがもっていたうちの一番よい着物を着せて正装させていた。丁度(反保)良が千久佐を二日に産んだばかりで、まだ産後の床に入っていたから、その婿の隆臣がオンボロ役、香須弥(三歳)が眼をさましてだだをこねて凄く泣いたため、テンヤワンヤのお囃子も入って賑やかだったよ。

腰で空揚げすると背中を手繰られるので、そのまま足の先まで引つ張り伸ばしていた。「藤塚さんも、この方が気持がよいだろうな」など言いながら、帯をしめ羽織を着せる。そして夜が明けたという順序であった。七日納棺した。

女達が驚いたのも無理はないがね。  
こここで一寸苦言になるかも知れないが……。死

んだらしまい、どうせ灰になるのだからと、裸の上にぼろい寝巻一枚だけを着せたり、どうせ火葬場で盗まれるのなら惜しいと、貴金属類や、ガメツイ奴なら金歯まで死骸からはずして取っておくという話を聞くことがあるがね。  
心得ごとだよ。

## ツタンカーメンの神秘

この世に残した所有物、中でも最も大切にしていた物にはその人の念(霊波長)が含まれているから、時には神秘的な心霊現象が現われるということも有り得ると言えよう。現世で使っていた物を、霊界の生活の中で使用している場合もあるからなア。

この間、アサヒグラフ増刊号「ツタンカーメン展」の本を見た。「発掘の歴史 — 黄金の棺を発見するまで —」の最後、四八頁から四九頁のところに、この遺蹟にまつわる「ファラオ(王)の呪い」といった怪談が面白く記されてあったのだが、知っているかね。

墓の入口に「王を妨げるものは死ぬであろう」と文字で刻んであったらしい。それでこの怪談が一躍世界的に有名になったようだ。あまりパツとしない話だがね。

カーターとカーナボン卿が一大発見者であるが、王の墓の奥室が開かれた一九三三年の二月に、卿は蚊にさされて発熱して三週間苦しんだあげく四月六日死亡した。それが始まりで、六ヶ月後に卿の弟が死んだ。続いて看護婦も死んだ。カーターの秘書が死んだ。三ヶ月後にその父も死んだ。カーターの親友の、ある教授は数週間の参加で訳の分からぬ病で死んだ。もう一人の協力者は作業中に気分が悪くなって死んだ。エブリン・ホワイト

博士は「死者の室」に最初に入った人であるが、墓から出ると神経衰弱になり数日後自殺して果てた。放射線写真でミイラを撮影しようとした学者は数日後に死んだ。こうした状態に疑問をもって現場を調査した政府の役人も不快を覚え数日後に死んだ。

このようにして学者十七人が死に、一九三五年、アメリカの著名学者プレスレッドが死んだ時は、二十二番目の犠牲者に数えられたという恐ろしい物語なんだよ。これはひどいね。私は否定しないよ。日本にだってこれに似た話は有るようだからね。だから死んだらしまいと信じている世の多くの人々に、「死んだら、死んだ人々の世界がある」ということを、私は知らせてやりたいだけのこと、姿なき人間の世界だがね。……ついでにこの世界には吾々人間界も含まれていることもね。

## 我原利尚さんが帰幽されました



我原さんは昭和41年から36年

間に渡って須加宮寮で調理を受け持たれました。退職後は大倭町自治会長を務められたこともありました。大倭安宿苑理事・評議員として任半ばでしたが、3月23日の月次祭の日に倒れられ、翌24日朝、4人の子供達の祈りも届かず旅立たれました。享年74歳。大倭会館で25日に前夜祭、26日に帰幽祭が行われました。奥さんの芳子さんを平成14年に亡くされて後、入退院を繰り返しながらも、毎月の月次祭や自治会の行事等に元氣な姿を見せて下さっていたので、周囲にとっては突然の訃報でした。平成10年3月号『おおよまと』の「寸沙」に登場して頂いています。改めてお読み下さればと思います。(編集部・中村千久佐)

# あじさい日誌

夕方から西の斎庭で大倭印刷(株)のお花見会。桜は二分咲き程度でした。

4月3日 午後2時から大倭病院会議室で、平成27年度の(示)大倭大本宮一般会計と大倭病院の予算会議が開かれました。

4月6日 大倭神宮月次祭。この日は昭和38年3月23日の法話をお聞きしました(平成21年3月号に「大倭は味の宗教である」として掲載)。

4月8日 午前11時より須佐緒祭が行われました。

4月8日 午後11時より須佐緒祭が行われました。

4月11日 新卒3名を含む採用・異動等、25名の職員に対して辞令交付式が行われました。

3月22日 奈良市の春咲きコンサートに、住死者8名が歌で出演しました。

3月30・31日 玄関前でお花見昼食会。

3月11日 作業納め会。皆さんの意見を聞いたり、またケーキを食べて親睦を図りました。

3月19日(特養) 誕生会で11名の方(内傘寿1名)のお祝い。

3月23・30日(デイ) 外出会。くら寿司で回転寿司の昼食。

(茂毛路園)

3月27日 防災避難訓練。ご入居者のほとんどの方に参加して頂きました。

(八重垣園)

4月1日 特定施設入居者生活介護の指定を奈良市から受けて、介護付のケアハウスに生まれ変わりました。

(俳句)「うららかやからすのえんどうト音記号」

奈さんが高校へ、井野智英さんが中学へ、矢追知奈さんが大学へ。

大倭安宿苑では

3月23日 午前9時より大倭墓地清掃。10時30分より物故住死者・職員の慰霊祭が行われました。

4月1日 新卒3名を含む採用・異動等、25名の職員に対して辞令交付式が行われました。

(菅原園)

3月22日 奈良市の春咲きコンサートに、住死者8名が歌で出演しました。

3月30・31日 玄関前でお花見昼食会。

(須加宮寮)

3月11日 作業納め会。皆さんの意見を聞いたり、またケーキを食べて親睦を図りました。

(長曾根寮)

3月19日(特養) 誕生会で11名の方(内傘寿1名)のお祝い。

3月23・30日(デイ) 外出会。くら寿司で回転寿司の昼食。

(茂毛路園)

3月27日 防災避難訓練。ご入居者のほとんどの方に参加して頂きました。

(八重垣園)

4月1日 特定施設入居者生活介護の指定を奈良市から受けて、介護付のケアハウスに生まれ変わりました。

(俳句)「うららかやからすのえんどうト音記号」

登美之郷だより  
昭和63年3月6日、大倭神宮月次祭に馬場美佐子・石川千鶴子さん姉妹がお詣り。矢追日聖法主によって平将門公の御霊が将玄坊大善神と命名されることとなり、3月23日は大倭と新皇教宮の地、登美之郷の結びつきを記念する「日高見大祭」とされました。今年の日高見大祭は都合で3月15日(日)に月次祭と合わせて、少し肌寒く梅の香る中10数名の参加者と霊人達とで明るく楽しく執り行われました。(群馬県安中市 西川弘二)

## 編集後記



グリーンファーマーの青春譜  
アサヒとシゲノリ  
杉山 重典

▼この3月に、杉山龍丸さんの『グリーンファーマーの青春譜』ファンダムと呼ばれた士たち(書肆心水)が刊行されました。「大戦末期のフィリピンで、飛行第31戦隊の整備隊長を務めた著者が、その作業日誌に基づいて、(略)戦争の真実を語りのこしたものである。(略)戦後70年のいま杉山龍丸の遺稿を公刊し、戦争の不条理をあらためて世に示す(表紙カバーより)。

▼龍丸さん自身は「幻の戦闘機

# あんない

\*月次祭(大倭神宮)  
5月6日(水・振替休日) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催第556回祝会  
5月10日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

\*月次祭(大倭神宮)  
5月15日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭(大本宮)  
5月23日(土) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

隊」と題していた原稿を、本にしたいと望みつつも、昭和61(1988)年に亡くなりました。長男の満丸さんが何年もかけて校正・編集をされ、出版を果たされたものです。お母さんからは、「何度も何度も、書き始めてはやめて、書き始めてはやめてを繰り返して、涙が出てたまらんとって、結局十年くらいかけてお父さんが書きよったよと聞かれたとのこと。す。

▼龍丸さんは「陸軍航空技術学校在学中に『戦争を中止させるためには』という心を心血を注いで考え、行動したという。その結果、日本は行くところまで行かねばならぬ」と悟った。「私は覚悟を決めざるを得なかった」。読んでみると龍丸さんの声の聞こえるようでした。(春

第326回大倭会文化行事

## 肩野物部氏の社(交野市)・王仁博士の墓(枚方市)を訪ねる

日にち 平成27年5月17日(日) 雨天決行  
集合 JR河内磐船駅改札口 10時  
交通 (近鉄) 学園前8:54準急⇒西大寺8:59着/9:07急行京都行き⇒新祝園9:16着、(JRに乘換え) 祝園9:27快速尼崎行き⇒河内磐船9:57着

ルート 徒歩6分(あまた)で天田神社へ。河内磐船駅に戻って長尾駅まで乗車6分・徒歩10分で王仁博士の墓へ。近くのインド料理店で昼食後、ぶらぶら歩いて田中家鋳物博物館、喫茶「時遊人」に寄り、JR 藤阪駅で解散。

問合せ 湯浅芳郎 090-6987-5847  
林 修三 080-2527-0840

3月28日 午後6時から大倭会館で大倭町自治会役員会。

卒業・入学 中島由愛ちゃんが幼稚部、中村篤夢君・我原彩有が入学した。

3月22日 奈良市の春咲きコンサートに、住死者8名が歌で出演しました。

3月27日 防災避難訓練。ご入居者のほとんどの方に参加して頂きました。

3月23日(特養) 誕生会で11名の方(内傘寿1名)のお祝い。